

令和 8 年度 第 1 回薬物療法連携部会

日 時：令和 8 年 7 月 6 日（月） 15 時 30 分～17 時 30 分

場 所：大阪国際がんセンター 1 階大講堂

参 加 者：屋木先生、大阪府健康づくり課 2 名、大阪府薬務課 2 名

国指定 18 施設 22 名（がん C 及び部会長含む）、府指定 38 施設 44 名
オブザーバー 3 施設 4 名

1. 開会のご挨拶

高木部会長より 4 年目となる今年度の方針について述べられた。

本年度は新たな取り組みとして、職業性曝露対策に関する講演を予定しており、薬剤師だけでなく、他職種にもご参加していただきたいとの方針が示された。

2. 大阪府からのご挨拶

大阪府健康づくり課中谷内主査より、行政として患者支援につながる取り組みについて検討していきたいと挨拶があった。

大阪府薬務課小西課長補佐より、薬物療法連携部会がどのような取り組みをされているか勉強させていただきたいと挨拶があった。

3. アンケート結果報告

高木部会長より薬物療法連携部会の目的について説明があった。

①がん薬物療法体制充実加算

診察前面談実施状況、がん薬物療法体制充実加算の届け出状況、算定件数は横ばいである。

②大阪版 T R の共有化

HP 掲載は横ばい、TR 報告は増加している。

二次医療圏（大阪市がん診療ネットワーク協議会）において、大阪市立総合医療センターでの大阪版 TR が半数以上使用されている報告があったことの共有がされた。

③化学療法実施中の患者に対する治療日誌・症状記録

今回初めて本項目についてアンケートを実施した。各施設における活用状況を確認することを目的として実施した。利用状況は、ほとんどの施設が紙運用であった。

・ Web 入力（阪大病院：山本先生）

部内で共有できる独自システムであるが、電子カルテとは連動していない。

・ AI 問診（がんセンター：竹田先生）

患者に PRO-CTCAE に基づいて副作用を入力してもらい、AI が前回クールとの比較を行い、症状を評価するシステムである。電子カルテと連動しており、IBM と医薬基盤・健康・栄養研

究所と共同開発している。

- ・スマートフォン、ePRO（東大阪医療センター：村地先生）

メーカーが無償提供している「ふくサポ」を導入している。一定グレードの副作用入力があった場合、アラートがメールで届く。現在 2 名の患者で運用している。

- ・スマートフォン（済生会吹田病院：仁田先生）

一部の患者のみで使用されており、ケモ室での問診時や薬剤師外来で確認している。

（済生会中津病院：萱野先生）始めたきっかけは？

（東大阪医療センター：村地先生）医師がきっかけで、複数のメーカーを検討した。

（高木部会長）今後も本項目について継続的に取り組んでいきたいとの方針が示された。

④令和 7 年度診療報酬改定

閉鎖式薬剤移注システム（CSTD）

CSTD 使用に関する課題として、コスト、適合性、作業負担、安全性や手技等が挙げられた。

今後も部会で継続して検討していく方針が示された。

4. 「大阪国際がんセンターにおける職業性曝露対策の取り組み」について

大阪国際がんセンター外来化学療法科部長屋木先生より抗がん薬の職業性曝露対策について講演が行われた。

職業性曝露対策の背景、CSTD の導入、個人防護具（PPE）の適切な使用、環境モニタリング等について紹介された。

（大阪赤十字病院：山瀬先生）CSTD を使用しているにもかかわらず検出されることについて、メーカーの見解はあるか。

（屋木先生）メーカーからの見解は確認していない。どの程度検出されれば人体に有害となるのかについては、現時点では明らかではない。病棟での曝露に対する認識も低い。

（高木部会長）CSTD を使用しても検出されるのは、手技の問題もある。職員および患者への教育も重要である。

（済生会中津病院：萱野先生）環境モニタリングについて各施設のデータを収集できれば、施設間での比較が可能となる。今後は、大学との共同研究も進められるとよい。

5. 薬物療法連携部会の活動について

高木部会長より「ICI お薬手帳用シール」を「大阪版 ICI 注意喚起お薬手帳用ラベル」へ名称変更する旨が示された。QR コードを付加し、詳細な内容がみられるようにした。なお、内容は、国立がんセンターがん情報サービスと厚労省の「免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象対策マニュアル」に基づいて作成した。

事前に部会員の意見を聴取し、それを基に今回修正を行った。（ラベル：3 案、資料：1 案）

（高木部会長）ICI お薬手帳用シールは丸型を考えていたが、シンプル版も作成した。印刷のしやすさ等も考慮するとシンプル版（四角型）もいいのでは？

→多数決でシンプル版（赤色）を採用

QRコード先資料について

（堺市立総合医療センター：小川先生）ICI お薬手帳用シールは、継続的に貼りかえるか明記した方がいいのでは？

（高木部会長）貼る場所は目立つように表紙でお願いしたい。

いつまで貼るべきか？

（市立岸和田市民病院：井上先生）再開もあるので、治療期間を把握するためにも期間を決めた方がいいのでは？

→「一定期間」と「永続」の意見が半々くらい。今後、メール等で意見を募ることとなった。

（高木部会長）大阪府薬剤師会にも確認し保険薬局の意見も聞きたい。

薬務課から配信可能か確認していただきたい。

6. 情報共有

- ・第2回がん薬物療法に関する多職種交流会

テーマ：アピアランスケア

国指定対象：令和8年9月28日（月）14時～16時予定

以降、各二次医療圏毎に開催

- ・一部の限定的な医療機関でのみ実施される薬物療法

（2025年1月現在）更新必要のため、アンケートへの協力依頼があった。

7. 閉会のご挨拶

高木部会長より閉会の挨拶があった。